

# 独立行政法人水資源機構理事賞（優秀賞）

## 見える水と見えない施設

三重県 高田中学校 二年 谷野 由依

みなさんは普段、自分が飲んでいる水のことについて意識したことはありませんか。テレビのニュースで水について考えさせられるようなことが増えてきたように感じます。アフリカのある地域が慢性的に水不足になっていたり、また、台風による川の増水で被害が出たりしているニュースを見て、水について全く意識したことがないという人はあまりいないと思います。私自身、今使っている水の有り難さを考えたことは何度もありません。

実際、蛇口から出てくる水の奥にある、見えない水道管について考えたことはあまりありませんでした。しかし以前、祖母の家の近くの水道管から水が漏れていることをたまたま知りました。その水道管は橋の横にあり、見える位置でした。祖母は私をそこまで連れて行ってくれ、私はとてももったいないと感じました。その後、修理を市役所に要請し、直してもらったそうです。

なぜ破損してしまったのか父に聞くと、老朽化だと言われました。前に橋の老朽化の記事をインターネットで読んだことがあったので、同じようなことが起きているのではないかと考え、厚生労働省の資料で調べました。資料によると、高度成長期に普及した水道の更新時期が現在来ているそうです。水道管路の法定耐用年数は四十年ですが、施設の更新が進まないために、老朽化が進行し、漏水等の事故が増加し、年間二万件を超えているそうです。さらに、水道管路の耐震化はあまり進んでおらず、大規模災害時に断水が長期化するリスクもあるそうです。私の家の周辺では、今のところ漏水という言葉はあまり言われていません。しかし、地中にある水道管はもしかすると今この瞬間も壊れてしまっているかもしれません。また、三重県は南海トラフ地震が今後起きた際に多くの被害が出るといわれている地域であり、あくまでデータが全国のものだとしても水が安定的に手に入られるまでに長い時間がか

かるだろうということが予想できます。大きな綻びができてしまう前に、根本から変える必要があります。私たちもそれに協力する必要があることを感じました。

大きな綻びの例が、去年和歌山市で起こった事故だと思えます。紀ノ川に架かる「水管橋」が崩落してしまい、多くの人々が断水による影響を受けることとなってしまいました。どんなに最新技術がはやつても、生活の基盤が一つなくなるだけでこんなに不安定になってしまうのかと衝撃を受けました。

しかしまた、私たちの生活を支えている水道の奥にも縁の下の力持ちが存在しています。浄水場やダムです。私は小学生の時、社会見学で浄水場に行きました。整然とした手順で水を安全にしていくのを見て驚いたということもありましたが、一番不思議に感じたのはもともと郊外の方だと思っていたのに、案外市街地に近く、私の世界のすぐ近くに潜んでいたということでした。教科書でいくら密接に結び付いていると説明されても納得できなかったことが分かりました。

その浄水場が水を取り入れているのは川なのです。川から家の蛇口までが淀みなく連携して初めて、水を活用することができるのです。それは逆に言えば、どこかがおかしくなると水を全く活用できないということでもあります。河川の護岸工事も浄水場の点検も、私たちに無関係だとは言えないし、無関係だから無視していいともましてや言えない問題です。目を反らさず、地域の問題が何であるかを知ることから始めたいです。